

I 中間評価の実施

- ・平成25年7月に公表したふじのくにの“みちづくり”
- ・5年間の道路重点計画の中間年にあたり、中間評価を実施 → H26末時点で評価
- ・計画の妥当性と進捗をチェックし、**今後の計画推進の方向性を確認**

II 中間評価の手法

- 評価の妥当性確認
- ・静岡県道路技術審議会が、客観的に評価

○評価項目

- 1 道路重点計画のチェック
 - ① 主要事業179事業の進捗状況
 - ② 評価指標の数値目標の実績
 - ③ 整備効果の検証（代表事業）
- 2 道路ビジョンのチェック
 - ④ 背景の確認
 - ⑤ 地域の声の確認



III 中間評価

① 主要事業179事業の進捗状況（H26末）

- 全179事業のうち、既に**98%**（=176/179）**着手済**。
- また、**1.8%**（32/179）は既に**完了**

ふじのくに“みちづくり”主要事業進捗状況総括表

目録 基本	重点施策 構成施策	主要事業箇所数				計画期間内 完了予定	進捗状況等 (H26末)		
		全体	国・NEXCO	県	政令市		着手	完了	
命と暮らしを守る	1. 高規格幹線道路の未整備区間の解消	9	9	0	0	2	9	1	
	①高規格幹線道路の整備	(9)	(9)	(0)	(0)	(2)	(9)	(1)	
	2. 地域の孤立等を防止する防災機能の強化	19	0	11	8	16	19	7	
	②橋梁の耐震対策	(11)	(0)	(7)	(4)	(10)	(11)	(4)	
	③法面等の防災対策（孤立防止対策）	(8)	(0)	(4)	(4)	(6)	(8)	(3)	
	3. 安全な道路環境を確保する交通安全対策	21	0	16	5	13	20	3	
	④交通事故対策	(2)	(0)	(2)	(0)	(1)	(2)	(0)	
	⑤歩道の整備	(19)	(0)	(14)	(5)	(12)	(18)	(3)	
	4. 道路施設の適切な維持管理	5	0	3	2	5	5	1	
	⑥道路構造物の長寿命化	(5)	(0)	(3)	(2)	(5)	(5)	(1)	
地域の自立の実現	5. 幹線道路ネットワークの構築	27	1	18	8	13	26	2	
	⑦地域高規格道路の整備	(2)	(1)	(1)	(0)	(1)	(2)	(0)	
	⑧高規格幹線道路や空港等へのアクセス道路の整備	(25)	(0)	(17)	(8)	(12)	(24)	(2)	
	6. 交通円滑化を図る渋滞対策等	90	18	49	23	39	89	17	
	⑨長大橋の整備	(2)	(0)	(2)	(0)	(1)	(2)	(1)	
	⑩主要渋滞ポイント等の渋滞対策	(40)	(9)	(15)	(16)	(12)	(39)	(7)	
	⑪スマートICの整備	(9)	(9)	(0)	(0)	(8)	(9)	(1)	
	⑫すれ違い困難箇所の解消	(39)	(0)	(32)	(7)	(18)	(39)	(8)	
	豊かさの実現	7. 景観や自然環境に配慮した道路整備	4	0	4	0	1	4	0
		⑬無電柱化対策	(2)	(0)	(2)	(0)	(1)	(2)	(0)
⑭富士山マイカー規制		(2)	(0)	(2)	(0)	-	(2)	-	
8. 身近な道路環境の改善		4	0	4	0	3	4	1	
⑮低騒音舗装		(2)	(0)	(2)	(0)	(2)	(2)	(0)	
⑯身近な生活道路の環境改善		(2)	(0)	(2)	(0)	(1)	(2)	(1)	
合計	179	28	105	46	92	176	32		
	100%	16%	59%	26%	51%	98%	18%		



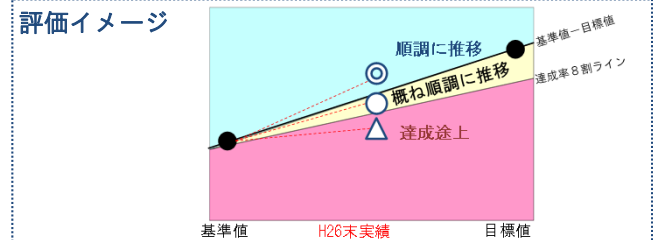
III 中間評価

② 評価指標の数値目標の実績

- 集計中の3項目を除いた10指標のうち**9指標の値が基準値より向上**
- 平成29年度の目標達成に向けて、**順調に推移**

ふじのくに“みちづくり”数値目標実績

基本 目標	評価指標	基準値 (年度)	目標値 (年度)	① H26実績* (10割)	② H26実績* (8割)	実績（平成26年度末）＜基準値に対する評価＞				
						③	傾向	評価	分析	
命と暮らしを守る	高規格幹線道路の供用率	77.30% (H24)	82.10% (H29)	79.22	78.84	78.00%	↑	△	・東駿河湾環状道路等の開通（H26.3）により向上 ・新東名、伊豆縦貫道等整備促進中。	
	南北幹線道路の供用率	40.20% (H24)	53.90% (H29)	45.68	44.58	42.10%	↑	△	・東駿河湾環状道路等の開通（H26.3）により向上 ・金谷御前崎連絡道路等整備促進中	
	重要路線等にある橋梁の耐震化率	4割* (H24)	100% (H34)	52	50	54%	↑	◎	・地震津波A P2013に基づき、富士川橋等の耐震対策が完了（累計309橋）。	
	道路斜面の対策箇所対策率	61.50% (H24)	83.40% (H34)	65.88	65.00	62.60%	↑	△	・地震津波A P2013に基づき、国道135号（東伊豆町大川）の防災対策が完了（累計117箇所）。	
	通学路の歩道整備率	71.00% (H24)	75.00% (H29)	72.60	72.28	70.60%	↑	△	・県道三島富士線（富士市中里）等、8.9kmの歩道整備が完了（累計610km） ※歩道路の見直しにより対象延長が増加し、実績値が下がる	
	事故危険箇所の死傷事故抑止率	-	約3割抑止 (H29)	-	-	集計中	-	-	・県道伊東修善寺線（伊東市広野）等、55箇所の交通安全対策が完了。	
	道路100km当たりの道路管理瑕疵事故件数	1.29件/年 (H24)	1.22件/年 (H29)	1.262	1.27	1.26	↑	◎	・直近5年間の平均道路管理瑕疵事故件数減少。	
	第3次救急医療機関への30分到達圏人口 ⁺ 率	77.10% (H24)	81.20% (H29)	78.74	78.41	77.1	→	△	・数値の増加はないが、カバー率の向上に寄与する伊豆縦貫道等高規格幹線道路等の整備促進中。	
	地域の自立の実現	高規格幹線道路の供用率（再掲）	77.30% (H24)	82.10% (H29)	79.22	78.84	78.00%	↑	△	・東駿河湾環状道路（H26.3）等の開通により向上 ・新東名、伊豆縦貫道等整備促進中。（再掲）
		南北幹線道路の供用率（再掲）	40.20% (H24)	53.90% (H29)	45.68	44.58	42.10%	↑	△	・東駿河湾環状道路（H26.3）等の開通により向上 ・金谷御前崎連絡道路等整備促進中（再掲）
中心都市等への30分行動圏人口 ⁺ 率		93.20% (H24)	93.90% (H29)	93.48	93.42	93.80%	↑	◎	・東駿河湾環状道路等の開通（H26.3）により向上 ・新東名、伊豆縦貫道等整備促進中。	
主要な渋滞箇所の渋滞削減率		-	約2割削減 (H29)	-	-	集計中	-	-	・国道1号静岡BPの一部区間4車線化（H27.3）等により周辺道路の渋滞が緩和	
高速道路の平均IC間隔		11.6km (H24)	9.2km (H29)	10.6	10.8	11.2km	↑	△	・遠州森町SICの供用（H25） ・H29までの供用を目標に、県内7箇所SICの整備促進中	
豊かさの実現	幹線道路における無電柱化率	20.30% (H24)	22.70% (H29)	21.26	21.07	21.00%	↑	△	・R136伊豆の国市南条等で電線共同溝整備実施。 ・国道1号、県道三島T線等において、電線共同溝整備が促進中	
	運輸部門のCO2排出量（*単位：千t-CO2）	6,679* (H22)	4,212* (H32)	-	-	集計中	-	-	・国道1号静岡BPの一部区間4車線化（H27.3）等による周辺道路の渋滞緩和によりCO2の排出量削減へ寄与。	



Ⅲ 中間評価 ③ 整備効果の検証（代表事業）＜その1＞



● 県道富士由比線（富士川橋）
橋梁の耐震対策（橋脚補強）

完了



[整備効果検証：利用者の声]

・ 工事をしている事は知ってましたが、いつも通る橋が地震に強くなったということで安心です。（地域住民）

Ⅲ 中間評価 ③ 整備効果の検証（代表事業）＜その2＞



● 県道島田吉田線（吉田町片岡）
渋滞対策（バイパス整備）

完了



[整備効果検証：利用者の声]

・ バイパスが開通し、交通の流れが変わり現道の交通量が半分程度まで減少した印象。朝夕の渋滞も無くなった。

・ また、大型車を含め交通量が減った現道は、歩行者が道路利用しやすくなった。



（神戸地区元自治会長）

Ⅲ 中間評価 ③ 整備効果の検証（代表事業）＜その3＞



● 国道301号（湖西市新居）
無電柱化の推進（歩道及び電線共同溝整備）

完了



国指定特別史跡「東海道新居郷所」など周辺施設との一体整備による道路景観向上と歩行空間の確保

[整備効果検証：地域の声]

無電柱化され、全国に唯一現存する

関所の町にふさわしい道になり、町に活気が出るようになった。

（新居中央自治会長）



※湖西市新居町観光協会資料

Ⅲ 中間評価 ④ 背景、地域の声の確認



○ 時代背景の主な変化（H25. 8以降）

- ・ 葦山反射炉の世界遺産登録（H27. 7登録）
- ・ 2020年東京オリンピック自転車競技が伊豆市内で開催決定
- ・ 道路施設の定期点検の法定化（橋梁、トンネル等5年に1回近接目視点検）

○ 地域の声における主な意見の分析（みち～満ち・充ちミーティングでの意見）

- ・ 道路に関するニーズは、地震対策、交通安全対策、渋滞対策、観光支援等変わらず。

■ 静岡県道路技術審議会の見解（H28. 2. 24）

■ 総括

中間評価で、静岡県道路審議会から、'●●●●'との見解を頂戴しました。

県は、大規模災害への懸念、広域道路ネットワーク構築、渋滞の緩和、交通安全の確保、道路施設の老朽化対策等を実現するため、引き続き、「ふじのくにの“みちづくり”」に基づき道路行政を進めることで、「富国徳の理想郷“ふじのくに”づくり」に努めていきます。